

高度先進矯正基礎学特論（不島健持）

Advanced Course of Highly Advanced Orthodontics (Kenji Fushima)

キーワード

- ① 歯科矯正学
- ② 臨床研究
- ③ 臨床課題
- ④ 研究背景
- ⑤ 研究デザイン

授業概要

現代矯正臨床の問題点を明確化し、今後の研究課題を展望し考察する。(1) 歯科矯正学の発展、不正咬合の病院論、顎顔面の成長発育、歯の移動のバイオメカニクス、顎口腔機能の成熟、矯正の歯周病学的背景、に関し講義する。(2) 矯正治療における歯周組織の改造現象を理解し、歯の移動と歯周組織の変化に関する研究を考察する。(3) 口腔機能の成熟過程を理解し、不正咬合と口腔機能不全に関する研究を考察する。(4) 不正咬合の背景因子としての骨格的要因を理解し、顎骨変形と不正咬合に関する研究を考察する。

授業科目の学修目標

歯科矯正に関わる基礎講義、臨床基礎実習を通し身に着け育成したきた能力と知識をもとに、臨床課題を認識し、課題解決型の研究デザインを立案する。臨床課題に関わる研究報告や作業仮設等の研究背景を理解するとともに整理し、設定した研究の位置づけを明確化し考察する。

授業計画

- ① 歯科矯正基礎学特論（不正咬合、成長発育、口腔機能、歯の移動、歯周組織）の講義 10コマ 不島健持
- ② 臨床課題の抽出と設定、関連文献の収集し研究背景の整理に関し修得する 10コマ 不島健持
- ③ 臨床課題解決型の研究デザインを立案に関し修得する 10コマ 不島健持

教科書および参考書

Biological Mechanism of Tooth Movement, Krinchnan V. & Davidovitch Z. (ed.), Iowa, Blackwell Publishing Ltd. (2009)
The Neurobiology of Orthodontics, Pimenidis M.Z., Springer (2009)
Science and Practice of Occlusion, McNeill C. (ed.), Illinois, Quintessence Publishing Co. (1997)

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

共通科目、高度先進矯正学入門、高度先進矯正治療診断学実習の履修内容を理解、整理し臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 歯科矯正臨床に関わる基礎学を理解し、修得する。
- ② 臨床課題を設定し、研究の背景を整理する。
- ③ 臨床課題解決型の研究デザインを立案し、実践する。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	25%	50%	0%	25%	0%

評価の要点

- ・講義終了後、口頭試問により知識の理解度を判定する。5%×5回=25%
- ・レポートは、授業計画の②について課題を提出する。25%
- ・講座の研究報告会、大学院の研究中間報告会において達成度を判定する。25%×2回=50%

理想的な達成レベルの目安

高度先進矯正基礎学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。